

# 惑星の成り立ちや 歴史的発見を紹介

## 岐阜で講演会

宇宙や天体について考える「天文宇宙の岐阜講演会」が二十九日、岐阜市美江寺町の市民会館であり、市民ら約四十人が惑星の仕組みなどに理解を深めた。

兵庫県の関西学院大理学部物理・宇宙学科の主催。理学部の中井直正教授が解説した。講演ではまず、惑星の成り立ちを説明。もともと星と星の間の希薄なガスが集まり、その後自身重力で固まって数百万〜一千万年ほどかけて成長する過程を説明した。

地球や火星、木星などは太陽の周囲を巡るため太陽系の惑星と定義される。中井教授は、天文学で大きな話題になった出来事として、一九九五年にスイス・

ジュネーブ大の研究者が太陽系以外の惑星を発見したことを紹介した。

地球から観測する場合、自ら光らない惑星が、太陽

惑星の成り立ちや探査など、天文学の現状を紹介する中井教授④＝岐阜市美江寺町の市民会館で



のように自ら光る恒星のそばにあると強い光で見えなくなってしまう。その問題を、恒星と惑星の動きに着目して観測したことが成功の鍵になったとした。

中井教授は「この発見のおかげで、今では太陽系以外に五千個以上の惑星があることが分かった」と説明。ブラックホールの紹介もあり、参加者の知的好奇心を刺激していた。(池内琢)